

イチゴのカルテック施肥例

(10アール当り)

項目	方法・時期	資材
株取り床	土作り (+肥料)	ラクト・バチルス 600グラム 堆厩肥 1トン(以上) 硫 安 100kg 畑のカルシウム 60kg (~100kg) ※堆厩肥が無い場合は 米ヌカ150kgと、NPK肥料を使用。
	途中調節	濃縮酵素液 500倍 葉面散布(根の強化・ランナー発生) カルテックCa液状 500倍 葉面散布(葉の厚み・株の充実) 7日ごと交互に。またチッソ切れの時はアミノ酸液肥を。
育苗	置き肥	緩効性チッソの置き肥と、畑のカルシウム20g/鉢の置き肥
	前半(6~7月)	濃縮酵素液 500倍散布(根の強化・展葉促進・タンソ予防) カルテックCa液状 500倍散布(葉の厚み・株の充実・ウドンコ予防) 4日ごと交互に。またチッソ切れの時はアミノ酸液肥を。
	後半(8月)	カルテックCa液状 500倍散布(株の充実・花芽分化の促進) 濃縮酵素液 500倍散布(根と株の体力をつける) Caを7~4日ごとに使用し、3回に1回ほど酵素液を使用。 特に花芽分化前にはCaを2~3日ごとに散布します。
本圃の準備	土作り (なるべく早期に)	堆厩肥・有機物・ワラなど 1トン以上(なるべく多く) ラクト・バチルス 600グラム 硫 安 80~100kg 畑のカルシウム または カルテックCa粒状 60kg
	(8月) 定植前の施肥	畑のカルシウム または カルテックCa粒状 30kg (土壌消毒をした場合は ラクト・バチルス 600g追加)
定植~ 一番果	定植時の灌水時	濃縮酵素液 1000倍(~500倍)灌水 … 初期の根張り促進
	(10月下旬) マルチ張り前	畑のカルシウム 10kg + 硫安 10kg、ウネ上に散布 (状態によって 10kg~20kg で、調節します)
	(定植後1ヶ月) 一番果の頃	①開花前: カルテックCa液状 500倍 葉面散布(受粉促進) ②着果後: 濃縮酵素液 500倍 葉面散布(初期肥大促進)
	(11月~12月) 一番果の肥大期 (状況を見て)	濃縮酵素液 2リットル 灌水(根の強化・新葉の展開) アミノ酸液肥 2リットル 灌水(体力強化) カルテックCa液状 500倍 葉面散布(成熟・ウドンコ防止) 月2回
冬期	(12月~1月) (状況を見て)	濃縮酵素液 2リットル 灌水(根の強化・休眠打破) アミノ酸液肥 5リットル 灌水(体力強化) カルテックCa液状 500倍 葉面散布(厚みをつける) 月2回
春期	(2月後半以降) (状況を見て)	カルテックCa液状 5リットル灌水、10日間隔2回 (過繁茂防止・果実の軟化防止) アミノ酸液肥 5リットル灌水、状況を見て月1回

- (1) カルシウムは土壌によって使い分けて下さい。
土壌が酸性の場合は畑のカルシウム、連作ハウス等で高pHの場合はカルテックCa粒状。
- (2) 基本的に、根を強化する濃縮酵素液と、充実・成熟させるカルテックCa液状とでコントロールします。上記の使用法は一例ですので、状況に合わせて加減して下さい。
- (3) チッソを含む液肥は、無機チッソをやらずに、アミノ酸液を使用して下さい。



カルテック栽培では、
果実のソウ果(ゴマ)
が多く、肥大、品質も



慣行栽培